

## 2016 年度活動報告

建築デザイン教育部会 部会長 櫻井一弥

2011年3月11日の東日本大震災より5年を経過し、各地では災害公営住宅の建設や復興まちづくりが進みつつあるが、一方で生活再建・コミュニティの再生という観点からは様々な課題が浮き彫りになりつつある。

建築デザイン教育部会は、建築計画、都市・地域計画、コミュニティ・デザイン等を専門とする研究者・実務家で構成されており、今回の震災復興の過程では、避難所・仮設住宅の設置・運営ならびに研究、復興計画の策定から復旧・復興事業の実施、高台移転等の宅地造成や災害公営住宅の設計・計画、復興まちづくりなどの多様な局面で、様々な関わりを続けてきた。

震災復興の各場面では、福祉・教育・産業等を含む多方面のステークホルダーの参加が重要であり、部会会員を含めた諸主体の橋渡しを実現し、更なる連携交流の推進が求められる。そこで、建築デザイン教育部会では、みやぎボイス連絡協議会とともに、「みやぎボイス 2016-これまでの復興と、これからの私たちの社会-」の開催に向けて、その企画段階からイベント運営にあたった。みやぎボイス連絡協議会は、(公社)日本建築家協会東北支部、みやぎ連携復興センター、(一社)東北圏地域づくりコンソーシアムからなる組織で、上記のイベントを2013年度より継続的に実施している。今回のみやぎボイスでは、これまでの復興の足取りを総括し、今後に向けての課題を抽出するとともに、くらしとまちづくりを主軸とした生活再建のあり方について検証し、これからの私たちの社会について議論することを目的とした。

建築デザイン教育部会としての具体的な成果は、本イベントの企画段階から数名の委員が関わることにより、復興の断面をいかに分かりやすく切り出すかについて意見を反映させてきた。また、ラウンドテーブルにおいては委員の数名がパネリストやコーディネーター等として実際に企画運営に関わった。最後に、濃密な内容の本イベントを書籍としてまとめるために協力をした。

研究補助費は、全て書籍の印刷代の補填に使用させて戴き、各方面から高評価を得るアウトプットが制作できたものと考えている。